

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼を行ない、経営計画書に沿って会社経営理念の唱和を行ない周知に努めている。また職員で考えたホームスローガンを掲げて実践に繋げている。	理念や独自のスローガンなどを毎朝の朝礼で唱和し、実践に向けた支援を行っている。ホーム長や主任、リーダーは常に職員の気持ちを考え、話し合いの機会を設けるようにしている。利用者や家族には利用契約時に理念などの説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のお店を利用し、日常的に関わっている。また、地域の方より地区の行事を教えて頂き入居者様と一緒に参加に努めている。	自治会に加入し区費を納めている。近隣に住んでいる職員も多く地域の情報も入りやすいので交流も易くなっている。地域の夏祭り「さいさい祭」の花火見物に出掛け利用者からも喜ばれた。近隣の方から野菜を頂き、夏休みには高校生の職場体験の受け入れを行うなど地域とのつながりを強くしようと努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解を深めるとともに職員教育に繋がるために、地域の方に本の紹介を行なった「不幸な認知症 幸せな認知症」		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の利用者様の状態を報告。地域の取り組みについて、情報交換出来ている。また地域包括支援センターの方より、アドバイスを頂き活用している。	区長、西部地区包括支援センター職員、民生委員、社協ボランティア、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回実施している。諸連絡や要望の他、歯科医による口腔ケアの研修会なども実施した。また、看取りについての話し合いも行うなど内容の濃い会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に提出する資料について伺い、教えて頂きながらケアサービスの質に繋がるよう心がけている。	市高齢福祉課の担当者に提出資料等の相談をし協力をいただいている。市主催で実施された「感染症研修会」などにも参加している。介護認定の更新については市より利用者個々に連絡が入り、ホームで調査が実施され家族の同席もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけず対応している。入居者様が不安なときは寄りそった支援を行なっている。	玄関は施錠されていない。玄関マットの下にセンサーマットを設置し通過すれば音楽で知らせるように工夫している。離脱傾向の強い利用者には職員が気が済むまで寄り添い対応している。身体拘束をしないケアについてはホーム長がミーティング等で随時勉強会を行い徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	事例などに基づき勉強会を開き、意識を高める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を立てた方が居た為、お話を伺った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	看取りについては、ご希望があったご家族様と話し合いの場を多く設け、入居者様に寄り添った心のケアとして宿泊できる環境を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族から頂いた意見はユニット会議等で話し合い反映させている。また行事を行なった際にはブログを活用しホームの出来事を発信している。	殆どの利用者が思いを伝えることが出来るが、若干名の方が難しい状況であり、声や表情が出るまで寄り添うようにしている。家族会は敬老の日に開催し、寿司職人による握り寿司でお祝いをした。その様子はブログで公開し喜ばれた。家族の来訪は毎日の方から月1回の方まで全家族の来訪があり、その都度お茶を出し、利用者の様子を報告し意見などをいただきコミュニケーションを図るようにしている。利用者一人ひとりの暮らしぶりを職員手書きの個人別「お便り」として家族に届け報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を各ユニット会議にて、提案していただきリーダーが吸い上げ、リーダー会議にて提案の協議を行い結果を報告している。	合同ミーティングが月1回、本社の会議の後実施され、様々な報告の後、ホームの運営やケアの向上に向けて話し合いが行われている。ベテラン職員と新人が混じるなか、意見も出易く、アイデアも多く出るという。出された意見やアイデアはホーム長と主任、リーダーでまず話し合い、出来ることは即実行するという体制づくりがされており、風通しの良い環境となっている。人事考課制度も平成14年度から取り入れられ個人面談も年2回行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員のレベル設定、評価、面談し目標を一緒に取り組めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などこちらから発信することで、参加して頂く機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県内のグループホーム連絡会に参加し、意見交換してる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学などの機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学などの機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、適しているサービスを紹介・提案する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、調理や掃除など一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加出来る様に随時連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、外出・外泊の機会を設けている。また、来客者が気軽に来られるホームの環境作りに努めている。	友人や兄弟の来訪があり、お茶を出し、ホールあるいは居室で歓談していただいている。来訪者の名前も記録に残し家族に報告するようにしている。手紙を出したい利用者には職員が代筆して出すこともある。利用者同士の繋がりも新たに生まれ、6名の男性入居者が積極的に掃除をしたり、食事の際に女性利用者を居室まで迎えに行き女性をリードする姿も見られるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様との間に、スタッフが入ることにより架け橋となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	担当のケアマネより様子を伺い、訪問の機会を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の状態をスタッフが理解し、気持ちに寄り添ったケアに努めている。(意思を尊重し出来る限り希望を叶える支援)	利用者は職員のことをよく見ていると言うことを忘れずに接するようにしている。仕草から思いを汲み取り、特に遠慮がちな利用者の会話を重く受け止め、食事の時、「一人にならない、させない」よう気をつけ会話に入れるよう取り組んでいる。食事の前には口の準備運動で「信濃の国」を皆で歌い、ラジオ体操も必ず行い、出来るだけ皆で同じことが出来るように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅に馴染みの物があればご家族の協力を得て持って来ていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼やユニット会議で日々の変化など全員で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会に来られた際に、介護計画についてご相談し個々のニーズにあったプランを提案している。	担当制を取っており、職員は1名～2名の利用者を担当している。計画の作成は担当者が行い、リーダーと検討を重ね3ヶ月に1回見直しを掛け、最長6ヶ月で見直しをしている。計画の見直しの際には家族の意向も取り入れ、作成後は説明も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に注意が必要な利用者様には、ケース記録の他に、専用のノートを作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望には柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議からも地域の情報を貰えるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診などご家族に希望を伺い、かかりつけ医に大きな協力を受け支援している。	利用前からのかかりつけ医を継続している利用者は1名で、その他の方はホームの協力医での対応となっている。月1回の往診と週1回の看護師の訪問で健康管理を行っている。協力医と看護師には24時間での対応をお願いしている。医療関係との情報のやり取りについては主任に一本化され医師との連携もスムーズに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の日々の変化を常駐の看護師に報告することで、健康管理の充実化を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関や松本市立病院のケースワーカーと連絡を密にとり、早急な支援が出来る関係作りを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの終末期を、ご希望されたご家族様と話し合いの場を多く設け、入居者様に寄り添った心のケアとして宿泊できる環境を整えている。	重度化への対応については利用契約時にホームの考え方を話し、看取りについては出来るだけ利用者や家族の要望に沿えるよう事前確認書をいただき意向をお聞きしている。本年2月、1名の利用者が深夜2時ごろ最期の時を迎えられたという。家族も3日間泊まり込みで付き添い協力医との連携を取りながら対応し看取りの時を迎えることもでき、職員もこのことを真摯に受け止め、家族からも感謝の手紙を頂いた。看取りは緊急医療対応も発生しむずかしいことではあるが出来るだけ利用者や家族の気持ちに応えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習には全員が参加出来るようになっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中でも、避難経路の確認を一緒に行なっている。また一時的な避難場所として協力体制を築きたい。	利用者、消防署員、地区民生委員、職員の参加で避難訓練、通報訓練を年2回実施している。ホーム長が消防団員ということもあり、特に2階からの避難の仕方について話し合いを重ね、非常階段からシーツを使っての想定訓練も実施した。AEDが配備されており職員対象に研修を実施している。備蓄については近々に揃える予定がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社理念に基づき、接遇についてはすべての職員へマナー研修の参加を徹底している。	プライバシーマニュアルが法人より全職員に配布され、プライバシー保護についての話し合いも内部で行っている。利用者の状況に合わせて寄り添い、呼び方も尊敬の念を込め苗字にさん付けでお呼びしている。利用者の人格と誇りを守り安心して生活ができるよう気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状況によっては、自己決定を尊重出来ない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先してしまう場面もゼロではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域密着の中で、近隣の美容院から訪問美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様より率先して盛り付けや配膳を行い、職員が寄り添ったケアに努めている。	殆どの利用者が自力摂取でき、一部介助の方が若干名いる。食形態も一部キザミ、トロミが入ることもあるが殆どの利用者は常食である。献立と食材は食材会社より提供されたものを職員が調理している。半数の利用者は何らかのお手伝いが出来、配膳、下膳はほぼ全員の方が出来るという。食事中も会話があり楽しく食事が出来ているという。近所から野菜も頂き献立に活用している。一人ひとりの誕生日に合わせてケーキとロウソクでお祝いし、お寿司等の外食に出掛けることもある。敬老会、正月等は行事メニューで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴前後など、水分補給は欠かさない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	不快な思いをしないように、適時声掛けにて排泄パターンをつかみ自立支援に繋げている。	排泄、排便は日々の暮らしの中で仕草や表情等でパターンを把握しチェック表を作成し、職員間で情報を共有しながら支援に取り組んでいる。布パンツの方が数名で、リハビリパンツとパットの方が三分の二近くで、夜間のみポータブルトイレを使用する方が若干名となっているがそれぞれに合わせ対応している。また、定時にトイレ誘導を行い、夜間は就寝前に必ずトイレにお誘いし、必要な利用者には夜間も2回声掛けをするなどこまめに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、自然排便を促すために、ヨーグルトを全員に召し上がっていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間を決めて入られる方もいるが、入浴日の目安は決め、気分が乗らないときは、環境を整えるよう配慮している。	入浴は週2回実施している。自力で入れる方と全介助の方が若干名で、見守りを含めた一部介助の方が殆どである。入浴を拒む方もいるが日を変えたり、担当職員を変えることで対応している。季節によってはリンゴなどを浮かべ楽しんでいる。夏場の厚い日にはシャワー浴を行い、温泉の足湯にも出掛けている。誕生日や敬老の日などに家族と温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く入眠出来るように、居室の環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や内服時間を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を分担制にすることで、当番表を見て自ら動けるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	福祉用具を用意し気軽に使用して頂ける環境を整えている	外出時に自力歩行できる方が半数、杖あるいは車イスの方が数名ずつで職員がそれぞれ対応している。外出の年間計画があり3ヶ月毎に職員が詳細を立案しボランティアの協力を得ながら実施している。4月には近くの公園へ「お花見」に出かけ、5月にはパラ園の見学、9月にはブドウ狩りに出かけている。おやつや洋服など日々の買い物にも職員がお連れし、南隣のホームセンターに1人で買い物に出掛ける利用者もいる。	

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際には、ご自分で精算して貰うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった方には、スタッフが代筆で手紙を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間トイレに行かれた際に配慮し、徐々に明るくなる照明を取り入れている。	ホームに入った印象は明るく、広々とした感じがする。壁には絵画が数多く飾られゆとりも感じられる。廊下には畳のベンチがあり利用者が寛げるよう工夫がされている。また、談話室も完備され、来訪者も気軽に過ごせるようになっている。冷暖房は床暖とルームエアコンで温度管理され快適な環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞などを取り入れて、1人でも過ごしていただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、今まで使っていた家具や小物など自由にお持ちいただけるよう提案している。	各居室の入口には色紙台の水彩画が飾られ和んだ感じがする。床暖とエアコンが完備され快適さが保たれ洗面台もつけられている。テレビ、衣装ケース等、自分が暮らしやすいように配置も工夫されており、家族の写真、自ら作られた作品など、思い思いの物が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事を分担制にすることで、当番表を見て自ら動けるように工夫している。		